

## 還暦のキリマンジャロ

15期 舟田 節子

誰もが順に迎えていく還暦...それが、私の場合は東日本大震災のあった年と重ねて記憶されることになりました。日常が瞬時に消えた方達のことを思えば、還暦を節目に...などと能天気な展開はやれなくなってしまいました。今年の会報で深田百名山の完登を報告した後に、新燃岳の噴火がおきました。これは百名山を狙っている人達にとっても災難だなと思っていたら、それを上回る大災害が勃発したのです。よく、「お金と、暇と、健康と」...という言い方をします。実は、天変地異がなければ...という大前提があって、次に言えることであつたのです。不謹慎ですが、今年のうちに仕上げたおいてよかつたと思つたものです(6月の庚申山で初めて膝痛を体験した時は、もっと痛感しました)。たかが山遊び、そして「山は逃げない」にしても、人間の方は様々の事情をかかえてしまうものなのです。仕事や、地域の役職や、親の世話や、孫守の間を縫って、さらには自身の加齢や、伴侶の加齢も考えたら、「思い立ってパッと出掛ける」なんて贅沢がやれるのは、わずかな間だと思われまふ。性懲りもなく、今年もすでに山遊びは70日を越えようとしています。

客観的にビッグな山行となれば、8月下旬に登つたキリマンジャロが挙げられます。5895mのキリマンジャロは、アフリカ大陸の最高峰でもあります。特別な装備も、特別な技術もなしに登れる、世界最高峰でもあるのです。国立公園や世界遺産としての整備が相応になされていて、一般人もツアー・参加でチャレンジでき、高度順化が出来るかどうかだけがネックになります。

花を見たい私としては、雲南省の四姑娘あたりを考えていました。が、トレッキング友人がキリマンジャロを狙つてたことと、実際に10日間程度出掛けられるのは夏休み中しかなかつたことから、そんな選択になりました。同時に目に留まることもなかつた「70歳以上は...(検診の結果、受諾できない場合がある)」の断り書きがグサツときたのです。生身の体が、いつまで、行くの行かないのと、逡巡できるというのか?! 知識や慣れで誤魔化せてはいるものの、明らかにバランスは悪くなり、躓いたり、滑っ

たりが増えていきます。中高年は元気といつても、免疫力は20歳の頃の1割に落ちている...それが実質的な中身の現実です。ツアー・料金を払つて、ガイドがついて、ポ・タ・が運んでくれたにしても、最終的には、誤魔化せない次元での体力、気力がものを言うこととなります。そろそろ登ってみようかと、呑気に思い至つた頃には、もう登れない山になっているかもしれない...。20年以内に消えるであろうと言われている頂上部の氷河は、どうせなら見ておきたいとは思いましたが...。ですから憧れというよりは、逆算の発想で、今登らねばの決断になつた山でした。

この経過はいつものように帰国後、大集中で38ペ・ジの紀行にまとめ、仲良くなつたツアー・同行者と親しいワングルOBに配布しました。大枚をかけたなら、とりあえずまとめないと、世間様に申し訳が立たないような...その種のプレッシャーを感じて、何はさておき状態で仕上げてしまいます。今はデジカメとPCがあるので、そんなこだわりでの後始末も容易になりました。結果、特に塩尻あたりで、かなりコピーされて読まれているようです。相当具体的に書いていますので、5895mに憧れる方には、役立つガイドになるであろうとは思ひます。

そのサマリ・となると、今回については一番移動負担が少ないということで、成田からアムステルダム経由でキリマンジャロ空港に入りました。登山口の標高は1800m。2日目は2727m。3日目は3720m。ここで一日高所順応日を取り、4100mの丘へ散歩に出ます。5日目の最終泊地が4700m。6日目は真夜中に出発し頂上アタック。まず頂上の一角であるギルマンズポイント(5682m)を目指し、そこを規定時間(6時間)内で通過できれば、最高地点のウフルピク(5895m)を狙います。そのうえで一気に3720mまで下りてしまいます。

ネパ・ルであれば一日あたり500mアップで押さえるのですが、アフリカは気温が高く、赤道近くで空気の密度が濃いので、高度障害が出にくいという解釈から、こんな行程になっています。大枚払つてアフリカまで出掛けて、手前のギルマンズポイントで満足という人がいるわけはありません。しかし、高度障害が出て動けなくなつてしまう人が必ず出ます。もっとゆっくりとなると、高所での滞在時間が伸びての危険が増えていきます。スピード不足に対しては

ガイド判断でのストップ指示が出ます。私達の場合は、ギルマンズポイントを4時間半で通過し、14人中の10人が最高地点に到達できました。それこそ5歩歩いてハアハア、10歩歩いてヒ-ヒ-の状態です。頂上標識にタッチしました。あとで皆さんも「頂上あたりの記憶がない」と言っていたくらいですから、朦朧状態でも歩けるような地形（火口壁を2kmほど回る）のお陰で可能ともいえます。

ところで、この5日前には24時間テレビのイベントで、イモト嬢と全盲のエリちゃんがキリマンジャロ登頂をやっていました。生中継は丁度日の出の時刻に行われ（場所はギルマンズポイントの下あたり）残りの頂上までは1週間後の「行ってQ」で放映されました。私は帰国してから、その録画を見ることになりました。あの辛くて、デジカメを出すどころではなくて（頂上と帰途では撮った）やっと目指した標識が、「もう少し、もう少し」とテレビに映っているというのは、嬉しいような、いきなり絵はがきになってしまったような妙な気分でした。

もう一つのビッグイベントとしては、2月11日に主催した、谷口けいさん（世界で女性初のピオレドール賞受賞者）の講演会があります（下記記事有り）。ATS社の深井さんに打診してから、すったもんだの5ヶ月を過ごしましたが、山の文化館と女性センターの2会場で、盛況に終えることができました。

「やれる時にやっておく」「今という時間を大事にする」...それが、震災という年にあたり、一層肝に銘じることになった教訓です。やれる時にという点では、テント泊での羅臼岳～硫黄山縦走、避難小屋泊での飯豊の三国岳～門内岳縦走、梅海新道にもチャレンジしました。その合間にはシュラフや一式を積んで、夫と、花を愛でる山旅を楽しみました。

中高年登山ブームに、山ガール、山ボイが加わって、昔は3Kと言われていた山遊びが、国民的スポーツといえる状態になってきました。ちなみに、先のキリマンジャロでは、私は14名中の若い方から3番目でした。中高年がこんなに世界の山遊びに繰り出しているのは、日本くらいです。まだまだ経済力にも、好奇心にも、行動力にも恵まれた国であり、日本人も、旅を、文化や感性として捉える人種であるように思います。「行ってきたよ!」と、年賀状や、会報に自慢できる間（自慢と思える間）そしてメルで写真披露をやっている間は、それらにも助けられて、山遊びを楽しんでいけそうに思います。



谷口けいさん  
金沢で講演会を開催

09年、女性初のピオレドール賞を受賞し、世界的アルパインクライマーとして活躍中の谷口けいさんによる、北陸で初めての講演会が、2月11日夜、石川県女性センターで開催された。「自分にとってネパールより遠かった金沢」と、一気に会場を和やかにしてから「あなたの夢は？」と問いかけ、「私にとつての山は、決して特別無理なことをしようとしているのではなく……」と、けいワールドをぐいぐいと展開。壮絶な壁を登攀しながら、明るい会話の飛び交う動画に、会場からは感嘆のため息や笑いがあふれた。

未知なる世界への感動を、自分のメッセージを添えて、出会った人たちに届けていきたいという谷口さんの熱い語り、満場の拍手が送られた。

同日昼には加賀市の深田久弥山の文化館でも講演が行なわれた。（文：舟田節子）



「あなたの夢は？」と参加者に質問する谷口さん